

ごま標準栽培暦

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
				▲ 播種期						▲ 開花期						▲ 成熟期					
主な 管理 作業	ほ場の準備			播種			間引き			中耕・培土			収穫			乾燥・調整					
	排水の良いほ場を選定し、砕土を充分に行い、整地を行う。			播種量 10a当たり100～200g 播種期 平均気温20℃以上 5月中旬以降			第1回間引き 草丈5～10cm 第2回間引き 草丈10～20cm 間引き終了後、できる限り早く行う。														
																					

■栽培のポイント

1 ほ場の準備

- (1) ごまは、湿害に弱いいため排水の良いほ場を選定し、排水対策を講じる。
- (2) 耕起・砕土・整地
種子が小さいので、耕起、砕土、整地は丁寧に行う。

2 播種

- (1) 播種期
 - ・平均気温が20℃以上であれば播種が可能。
 - ・地温が低い(20℃以下)と出芽後の草丈の伸長が遅いため、中耕作業も遅くなり、除草が困難になる。
- (2) 播種量
播種量の目安は100～200g/10a程度である。
- (3) 播種方法
 - ・畦幅が60～70cmの条播あるいは点播とする。
 - ・栽植密度は10,000本/10a以上とする。
 - ・5mm以上覆土すると出芽率が低下するので、覆土の厚さに注意する。
 - ・播種後乾燥すると発芽が悪くなるので、十分に水分がある状態で播種する。

3 施肥

・施肥量は下表を参考に品種・系統や地力等を考慮して決める。

施肥事例 (kg/10a)

堆肥	1,000
苦土石灰	100

成分名	基肥	追肥
窒素	3.0	1.0
りん酸	5.0	
加里	5.0	1.0

4 栽植密度と間引き

ごまは、日射や通風が特に大切で、密植状態では収量が減少するので、適正な栽植密度になるように間引きを行う。

- ・第1回間引き
草丈5～10cm(20,000～40,000本/10a)
- ・第2回間引き
草丈10～20cm(10,000～20,000本/10a)

栽植密度については、ごまぞうは10,000本/10a、白ごま、黒ごまは20,000本/10a程度を目安とする。

5 中耕・培土

間引き終了後、できるだけ早めに行う。

6 病虫害防除

病虫害は少ないが、カブラヤガ、アブラムシ、カメムシの発生には注意する。
ごまは登録農薬が少ないため、農薬使用の際には、最寄りの農政関係機関に相談する。

7 収穫

・収穫適期

白ごま、黒ごま、金ごま: 下節のさく果の裂開が始まる時期
ごまぞう: 下節のさく果の裂開が始まる時期から1週間後

収穫の目安は、下節のさく果が黄色または褐色に変わり、2～3個裂開し始めたなら刈り取りを行う。特に白ごま、黒ごま、金ごまは、刈り遅れると脱粒のため収量が低くなるので、適期に収穫を行う。

8 乾燥

刈り取ったものは束をつくり、穂先を上にして5～6日間天日により乾燥する。

9 脱粒・調整

乾燥したものを穂先を下にして棒で叩くかシートの上で叩いて落とす。その後2～3日乾燥して仕上げる。